

こども教育宝仙大学 研究室だより 第2回

「子どもと一緒に親も育つ」

母親には「母性」があり、本能的に子どもを育てる能力が備わっているとよく言われます。実際には「母性」が具体的に何を指す言葉なのかが明確ではなく、「母性＝親として適切にふるまうことができること」と簡単に言うことはできないのですが、「育児ノイローゼ」や「虐待」など、困難を抱える親の問題に注目が集まっている中、親として適切な行動をとれない母親に「母性が欠けている」と厳しい批難の声が上がることもしばしばあります。

発達心理学では、人間は生涯にわたって発達するものであり、母親だけでなく父親も、子育てという経験を実際に積み重ねることで、少しずつ親らしくなっていくことが確認されています。また、父親・母親ともに積極的に子育てに関わっている親ほど、子どもに対して肯定的な感情だけではなく否定的な感情も持つようになります。子どもに否定的な感情を持つことは親として問題があるように思えます。しかし、否定的な感情によって、親は自分の子育てを見直したり、子どもの自立をうながそうとするようになることもわかっています。



赤ちゃんが年齢を重ねて子どもになっていくように、親も子どもの年齢と同じだけの期間、経験を通して親として発達していくのです。保育者には、子どもの発達だけでなく親の発達も見守りながら支援するという役割が求められることとなります。

(青木弥生 研究分野：発達心理学)